

Cover History

— 表紙写真由来 —

北淡路先端ファーム

— 農業参入企業誘致を目指して —

— 兵庫県淡路市 —

兵庫県西播磨県民局光都土地改良センター
元 兵庫県淡路県民局洲本土土地改良事務所

合田 弘

1. はじめに

表紙写真は、大阪府の建設会社が農業法人の会社を立ち上げ、2017（平成29）年からオリーブを栽培している兵庫県淡路市楠本にあるオリーブ畑を撮影したものである。

2. 北淡路先端ファーム

兵庫県にある淡路島は、瀬戸内海にある面積 600 km²、人口 13 万人の島で、温暖な気候や都市近郊の立地を活かし、タマネギやレタスなどの一大産地となっている。島の北部に位置する国営農地開発事業北淡路地区では、1968（昭和43）年度から 1989（平成元）年度にかけ、ミカンの産地を目指し、約 400 ha の農地が造成された。

しかし、オレンジの自由化や農業者の高齢化等により約 100 ha の農地が未利用であり、その数は年々増加の一途をたどっている。

そこで、その未利用農地について、神戸や大阪の消費地から良好なアクセスを活かし（図-1）先端的な農業地帯とするため、企業等をはじめとする新たな農業ビジネス参入の場（「北淡路先端ファーム」という）として活用を推進することとし、農業参入企業誘致を目指し参入事業者の公募等を北淡路土地改良区が中心となって実施している。



※文献1)より転載

図-1 北淡路地区まで神戸から車で 30 分

3. 農業参入企業誘致を目指して

(1) 企業等への広報活動 まず 2018（平成30）年度には、農業参入企業誘致の広報活動としてパンフレットや動画および農地活用イメージ模型が作成された。併せて国が主催する農業参入フェアへ参加したほか、北淡路現地において「オープン農地フェア」が開催された。本フェアでは、すでに参入している事業者からの講演や、貸出し候補農地の現地説明会、農地貸借に関する相談会が行われた。

(2) 参入事業者の公募 これらの広報活動の反響は大きく、多くの参入希望があったことから、より優良な事業者・営農計画を的確に選定できるよう 2019（令和元）年度から参入事業者を公募・審査することとした。

一方、貸借希望農地は幹線道路に面している区画や最近まで営農されていた耕作条件のよい農地が大半で、条件不利農地の希望は少ない状況であった。このため、次に掲げる 3 つの方針のもと、地元合意形成の得られた団地から順次、公募を実施することとした。

①虫くい状態ではなく、まとまった農地を用意すること、②現状の荒廃した農地をすぐに営農できる状態に戻すこと、③大型車が通行できるように農地までの道路環境を整えることである。

これらを実現する手段として「農地中間管理機構関連農地整備事業」等を活用し、参入事業者や地権者に経済的負担を課すことなく、また、補助事業で可能な範囲内で、参入事業者の営農計画に応じたオーダーメイド型の基盤整備（図-2）を前提に公募することとした。公募に当たっては、公平性を期すため、募集要綱・要領等を定め、ホームページや新聞等報道機関を通じて告知した。

また、応募者には営農計画の提案はもとより経営計画や企業会計状況等の資料も提出してもらうこととした。土地改良区にはこれらの応募資料の審査のノウハウがないため、中小企業診断士や農業協同組合、農業改良普及センター等の有識者で構成する第三者委員会を設置し、審査基準を作成して審査に当たることとし

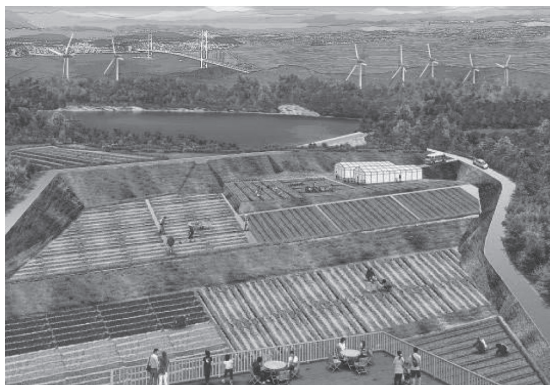


図-2 第2期公募団地の整備イメージ図

た。この審査委員会を経て、最終的に北淡路土地改良区理事長が事業者を決定するスキームとした。

現在、募集を開始してから2022（令和4）年までの4カ年で約33haの農地について参入事業者を募集し、延べ11者の参入が決まっている（写真-1）。これらの事業者は、オリーブの6次産業化やマーケットインに基づく新規作物導入を計画したり、淡路島産のワインを醸造、販売するためワインブドウの栽培を行ったりするなど多彩である。



写真-1 第3期公募団地の農業参入者内定通知式

(3) 北淡路地区の特徴 北淡路地区のアピールポイントとしては以下のとおりである。

- ① 環境が良い：平均気温16℃の温暖な気候で、年間降水量は1,281.9mm、日照時間は2,110h/yearと長く、海に近く景観抜群で風光明媚である。
- ② 都市圏からアクセスが良い：神戸からは30分、大阪からは1時間で、明石海峡大橋を渡るとすぐ大消費圏である。
- ③ 観光客をターゲットにできる：兵庫県立公園あわじ花さじきへ年間約80万人の観光客があり、観光農園や多様な農業を展開できる。
- ④ 6次産業化を展開できる：淡路島ブランドとして商品化できるため、企業間の連携や取組みが活発化

し、「農産物の生産→加工→販売」の新しい農業分野へチャレンジできる。

- ⑤ 水源が確保され用水設備が完備されている：常盤ダム、谷山ダムの2カ所を水源地とした1,080千 m^3 の水源があり、各農地へはパイプラインにより配水され、給水設備（給水栓、スプリンクラー）が完備されている。

4. 北淡路地区散策

以前、北淡路土地改良区が主体となり、北淡路地域の魅力の再発見と活性化に繋げるため、地域住民と連携して農業水利施設等の地域資源を活用した散策会「北淡路はなはなウォーク」を開催した。その時の北淡路散策コースマップを片手に筆者も散策してみた。

(1) 兵庫県立公園あわじ花さじき 甲子園球場の約4倍という広大な花畑である「あわじ花さじき」には随所に四季折々の花が咲き乱れ、ゆっくりと散策すれば時間が経つのを忘れてしまいそうであった。園内の展望台は、明石海峡や大阪湾まで目が飛びこんでくる絶好のビューポイントである（写真-2）。



写真-2 展望台から明石海峡大橋方面を一望

(2) 野島鍾乳洞 兵庫県で唯一の鍾乳洞である野島鍾乳洞（写真-3）は、第三紀中新世中期（約2,000万年前）の神戸層群下部の岩屋類層中にあるカキの貝殻が



写真-3 野島鍾乳洞入口付近からの一望

密集してできた含礫砂質石灰岩中に生じたものである。

(3) **兵庫県立淡路景観園芸学校** 兵庫県立淡路景観園芸学校は全国初の「景観園芸」の教育研究機関で、キャンパス内の庭園や花壇は一般開放されており、自由に散策ができる(写真-4)。また、カフェテリアでは食事ができるテラス席もある。



写真-4 兵庫県立淡路景観園芸学校

5. おわりに

北淡路地区の未利用農地を解消するために始めた取り組みではあるが、今後とも地域住民や農家、地権者の理解を得ながら丁寧に進めていくことが肝要である。

今後は、基盤整備された農地での営農状況等も併せて広報活動することで、優良な事業者の公募に一層繋がると確信している。

農業水利施設等の管理者である北淡路土地改良区の新阜理事は「農家や地権者の協力を得ながら農地を守り、活かし、次代に継承するため、この活動や取組みを地域ぐるみで継続的に取り組んでまいりたい」と思いを寄せられている。

また、淡路市が策定した「北淡路地区営農ビジョン」では、目指すべき農業の姿(基本目標)について“新しい農業のカタチを作り、多くの人が訪れ、そして暖かく受け入れられるような「北淡路」へ・・・”としており、これからは家族経営中心の農家がさらに減少すると見込まれる中、農業への企業参入は必要不可欠であり、雇用創出や人の対流・還流などの面から新たな農村振興に寄与するモデルケースになることを期待している。

引用・参考文献

- 1) 北淡路土地改良区：北淡路でチャレンジ農業ビジネス—北淡路先端ファームの形成—(2022)
- 2) 加藤浩司：北淡路 先端ファームの形成—オーダーメイド型の基盤整備による企業参入の促進—, 農村振興 857, pp.16~17 (2021)
- 3) 淡路市産業振興部農林水産課：北淡路地区営農ビジョン「北淡路を拓く」, 兵庫県淡路市(2021)
- 4) 正木伸幸, 合田 弘, 山口哲史, 元木陽介：北淡路先端ファームの形成について—農業参入企業誘致モデル事業による未利用農地の解消と地域振興—, 農業農村工学会京都支部第79回研究発表会講演要旨集, pp.166~167 (2022)